

研究・調査報告書

報告書番号	担当
90	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳) Alcohol consumption and mortality from stroke and coronary heart disease among Japanese men and women: the Japan collaborative cohort study. 日本人男女における飲酒と脳卒中死亡および冠動脈疾患死亡との関連 : JACC study	
執筆者 Ikehara S, Iso H, Toyoshima H, Toyoshima H, Date C, Yamamoto A, Kikuchi S, Kondo T, Watanabe Y, Koizumi A, Wada Y, Inaba Y, Tamakoshi A; Japan Collaborative Cohort Study Group	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Stroke. 2008 Nov;39(11):2936-42.	
キーワード アルコール摂取 冠動脈疾患 死亡 脳卒中	
要 旨 背景 : 既存研究にてアルコール摂取 (飲酒) と循環器死亡との関連が示されてきた。しかしアルコール摂取と脳卒中死亡および冠動脈疾患死亡との性別の関連に関しては不明である。	
方法 : 1988 年から 1990 年の間に 40~79 歳の男性 34,776 人、女性 48,906 人がアルコール摂取に関する質問を含む自記式質問票に回答した。これら対象者を追跡した (追跡年の中央値は 14.2 年)。	
結果 : 83,682 人のうち、1,628 人が脳卒中で、736 人が冠動脈疾患で死亡した。男性では、大量飲酒 (一日 46 グラム以上のアルコール摂取) は全脳卒中、出血性脳卒中、虚血性脳卒中の全てにおいて死亡率の上昇と関連していた。その一方、少~中等量の摂取は、摂取なしと比較して全循環器疾患死亡率の低下と関連していた。これらにおける多変量調整ハザード比 (95%信頼区間) はそれぞれ次のようであった。全脳卒中 1.48 (1.22-1.80)、出血性脳卒中 1.67 (1.17-2.38)、虚血性脳卒中 1.35 (1.04-1.75)、全循環器疾患 0.88 (0.78-1.00)。女性では大量飲酒 (一日 46 グラム以上のアルコール摂取) は冠動脈疾患における死亡率上昇と関連していた。また、一日 0.1~22.9 グラムのアルコール摂取者は、非飲酒者に比べ全循環器疾患死亡率が低下していた。大量飲酒者と一日 0.1~22.9 グラムのアルコール摂取者の多変量調整ハザード比 (95%信頼区間) はそれぞれ 4.10 (1.63-10.3)、0.75 (0.62-0.91) であった。	
結論 : 大量飲酒は男性においては全脳卒中死亡、特に出血性脳梗塞死亡および全循環器死亡の死亡率上昇と関連しており、女性では冠動脈死亡と関連していた。一方で、少~中等量のアルコール摂取は男女とも循環器疾患死亡率の低下と関連していることがうかがわれた。	